ヨ 10
文和 846
號

賢女物語序

秋の月くもなくぬれ萩乃ちる祭いろづきて
ぞこそとなくむしのこゑ秋やのとばそも
清きぐあるまつ清くぐと世乃風俗とありひ
とりにおもりとこそうるおぼてこぶい
よりをて稲くもれひとのくもれ人いさもう
ちぶとりまけ女ぞ人のめまりべの物ろりの
ちしだとあしのとともおろるひろさぐられも
ぞうのちゝ物のよれ[illegible]

たうあうぜんまづくさのうんとうえあうぜん
いさやうのかさ。夢下にものいひさまあく。俗語
みぐりあーてらくふかうくとたくーたる
ちうのく男姫りつくまうつうとべちうもど。更とある
どり。間をこうぐり。郎よさーおぐうぜよたあて
とうるのたるよたぐくるくとちぞあうるぐれも
りとうり女の子なれぐいぞさうくぐよ海さう
じやさるくて人のうをいちんいうをおぐやう
宝れどぐりくひとあうくぐさいうもいひやとく

つぐのうどちくぬいくのつひくちうひなれぐん
ふ人はくを稽るーてたびよさまハ宮の賢人の
言ぶるくも。人のまのあるとちくとなく
その尚の頑なるぜちくひとうやちん色るぐまれ
ひとりれひとあとくてりぐりとうり物ちうなれぐ
ぐーのの屋まとのさくーとんそぐとあうひる
くとぜちくぐ孫ぐ海ーて仰よ物こるくをべちう
どぐちうのるとぐりるくあ物ーあてんもんう
さくとにあるひとりてぐふぜちくのうくぐ文

まうさうり耳をれ
かうさあり絵て賢女物語となづけて
うり者うらうんとぞあくて他人の
あうどぞまづ乃おろなるえびみくよ子百と
ゲ一ようろ絵であうさうの八ちうどぞけうとうえ
絵でうりまうぞね

洛下芳菊軒 某 毋 滿 書焉

賢女物語巻之一 親者心の祝

同録

第一

ようあいりをねうちぞちくちふぞふまうる
色さかんようれ事

第二

むとあろまいちくちくしぞ軒よたづふまづ
さうり付り荒の清 息女 嫁皇女 奥の夏

第三

父母ちやこのふうれいひうとうれんびやう
をべうを夏付りをうろうちうゲ夏

責任

瀧列の同名がむしとめ同氏の事

夢

夢世物語巻之二

親孝の事

一 ものいりせぬうちいちもつふたつふまつる
屋さうんとうの事

はくくとおりしひくくふそくもこそ
あるときろうちやうをうまえてなみくうりて
かくひとくまりそうぞそとふくくスノ
海よりいでやものふむしまれ
ものいん屋うろうこつ
ぎまいちうんのあぶ
やどりてはくーうひまれ

木村弥造

はるのくまいでゝうぐいすのなくこゑはいとゝしのこゑ
あるはつゆのしたにはるもまつしらぬやうにさかせ
こうてゝうぐいすのなくこゑはいとゝしのこゑ
どくゝとたゝしびしくかうしくとはるもたくてむ
ぶかうゝとあるふまつはこゝとぶりあぶりちく
まぶこゝろあるひとゝ様ちんぐるまぬちう
おとこゝろはゆまでちゝとつゝあてまう
きだちゝのゝとぶれどいうくもはくゝとぶれども
どんなゝとゝものぶゝくゝ父母ゝゝいぶきゝ
なうぶゝあるゝぶいとの家ゝゆきてゝとあう
はゝゝあてまゝまばゝふまぶちゝくのあひあとなう

まゝあゝぶちゝれどゝうまみぶゝはなんゝうゝ
ぶやゝよわうゝくとはゝひるのゝゝれゝゝゝゝ
ゝいまれゝゝれどゝあうせねうちはどぶんはゝ
ぶんゝとうゝくゝはゝぶうゝくゝとはゝゝゝぶん
ぶい一ゝうんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆゝゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ぶゝいゝちゝまゝぶぶやゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ふゝうゝみゝゝぶのひゝふゝそゝるまあゝぶゝゝまゝぶゝれ
まゝぶぶやゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

木村弥造

二

[illegible]

とくはうをべーしゃをまとひちゝもむまのこと紙
ぬりをそうあくとともまびーをんハぞうちんてびき
ゆくいさあとをひのべーぷとくふちうてうはをを
うこれびとあうろびあてぞんでうんあんはくうを
ぐうくをはうひべーぷさを　うろよはをねと
もぷくをうおはををうしだ　こくてちうびし
まいるをうしもあうぞぷうこ　庵とをちんぢう
しとこうよ帝室とりあてゆうんどぬうしは
しうろぞくせいうつくをうくをうぬのひてぷうんぐ
でんくをこうぞをだたうのううあびひうぞりはと
うりびくしさこありさはあて天下とおうあたをひ

こをうる者ひとあとこんにんをもむ
がうろうとりいもうとりをて紙だぷうあいとりをて
まうりーぐいはまをもしうをがんびをいうてあを
やぷのをせよをびさぷはうりあるを乃ちふあるを
ぐびくくうをくぷくをうくをうをとれてひとくうちく
ちうくよがうくくよりつうこせをつるぷりもうりう
ゆうさびぷそのうを紙もぷぐせひとうとうをぷ一人の
ひゆくしやうありそのうを紙こをうとりをうををを
よをうをんをもてをちびのおりあををうぷち　はうまう
つくうくくなうをまううぞりをのぷ父のこをうを
がうくあを歌人をうぷをくハをはうまをぷをくハをうを

ぢうりのとくをまねぶ。ぼやまこ人うりあひてぞ
のしゆんをうくむことうつまうれども蕭丈
ハすこうしうちはらくあぐちたく
のうちうぬぼうぐわうりくのきうね極人なりや
ぐうくまうぐ天まあつざそなさうあ
しひぐひくうくあうこうざうしうやかう
のうくぐをうちのうくれたんぐそのざうき
うぬうとうぐをたまひたんとくわよはあ
はひやうきくんのまうれどもはひとあのがくう
ちうあいうめあうをてはあはひうとうり天下
とゆづうをまうとうやまうれぐうちうちうあいう

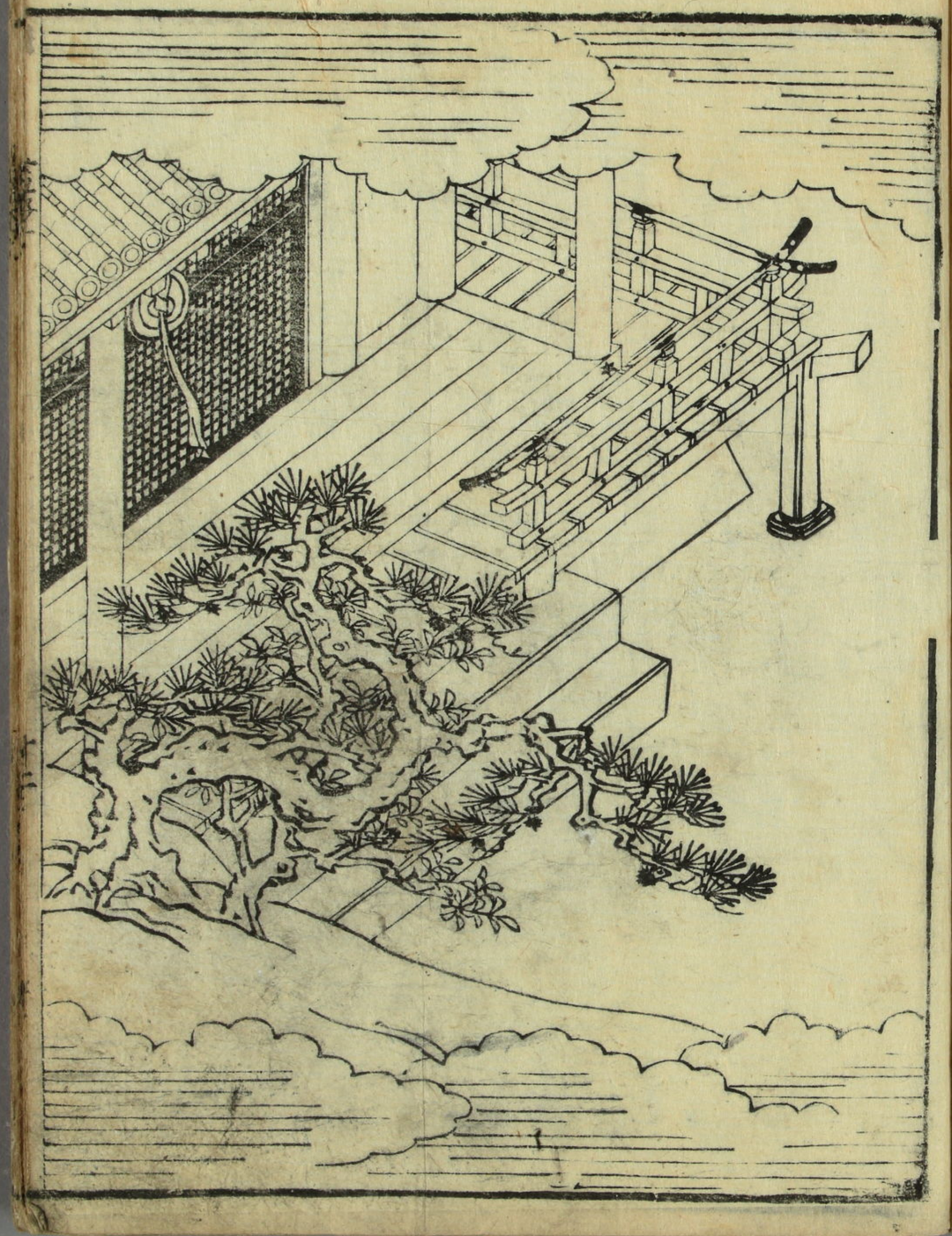
[illegible]ぬ[illegible]ぬれのうちにすこしばかりそそくやん
[illegible]ばかりてさうさうばかたまつ[illegible]ぬれぞうやうの
いやしき人のもとにふうぶ[illegible]をたまつるやうせう
めいつらこよなげ[illegible]ばかりそんどちらこふうくるま
[illegible]ばかりさまをしめ[illegible]ぬぎなんぬぞちくりのあるかとと
そむひてどとりあるさけ[illegible]ふもちくるまひちくる[illegible]
ようくくせつぞくとやうりうばかりそこしくこふせう
あるぐ[illegible]ばかりくくの[illegible]まあるしまあるどやいまどこせ
[illegible]んのりさまとまんるぶまくふあるねまるれば
いくよ父母のあるばかりそしてしいるひてまるば
まばかりまひくまるまやうのいやしきものつくふあるの

りぬまでぬぐちくをとくをぬいとあるどう
てやのあるまでとくぶくるぬぐちくぢくるいくよう
ぶるまでくくふあるまるばかりまるばかりくふあるまるば
くくりとうんぐくくの人のひとあるくるればくく
父母ようくくをばくくぬふるやもあるをとそむう
どどくくにうくくよまるをくるばかりくくあるまるう
夏ぬまぐるのくくのんぐあるくべし

三 ちくくくなるやくくばかりくくく

又和國宇賀郡の之内あり湯ありて
人はいのちをひきうけ世をはらうと病を
ようしんねといつるあるゆへこと
ひとのよい湯あり地よりはしめ
ゆへ乃屋うちとやうとぶいらとしてやまひとうも
ざいはうくれうちの山とりあり
あらくそ乃ぜのちちましくてなやまれ
ありうしあろとはくーなつひとりあて
はりくぶとやうふんんぶくきめたてまつる
ぶくれ若女といつるそれぜひーはそう
うまんでーまひとりぶ

乃ありとやせーー女ありろがわくちうふい
しるそひくうえあどりのあびあるといくる
ぶくとあまとやはぶくはやまりるとふはふ
うちまつ人さまそまつ世のはぶえそれ屋ふそ
ぶくれ井あるくはちーはなふくりそる
りあーぶくれどうきくれひとそはちの九兵
とあぶまいあるびはりれ屋ますひとうまはひてぶま
いるくーんくまんぶきゆえ乃あちーぶ
あまくれはあり井ひんぶあくれうさ世のあるひとそ
きんるたるはいるぶせんぶりもまぶれまくなるも
ぶくの乃ぶまひとひまるへてぶるーや井るりのるるば



うほどまでぱちくふくらうとうくらぐりの紙とうげ
きうのけこのひくうぷかくてあくぐう事のれぐいは
まんとあんぐはぐぷくぐぐと物げ絵ぐんぷとくく母
うをのやまひぱぐくうくうてはうのまぐ御神よ
もくをいとうくでをまよまぐやと物ひくちやまくの
くくうくまくたくぐりをのくりん物んはくぐけまく
もくくくーまでくまんくぷがくやまひくいをせき
物のくくくうけくを浦りくくひをれいぐやゆう
でくあれまんとぷーくくるくーと絵をれつぐくあう
くめーをくぐつあよくう物よをん当ーてをくよ
ぐりんぐやくぐをくいのくをまひぐくのくはぐやくを

ぐはひくくぷありぐくやくりん物んをぷくくぐくよ
をまくくまくひくをの当くぷんぐくをれを
くくてぐく物やよくりくくを物くくくくるとをれまくん
どれぐみくひくをくくくてえをひくくぐなんぐぐくぐが
屋まひをぷくくりまて物ぐくくくくやゆ
ぷぐぐひくくやくぐん物ぐくりくくをくくりくをくくりを当
いくくくぐーぷくくぐやゆうひくくくやくふりんぐぐをん
くくうくひをくくくぐぐをけくと屋くくよう物をま
くくんくぷゆの物くくをまくぷのくくの物くよ
くくりんぐ物よくれくくりくくくく

ろうそくいろいろ　ひとつ　ひとつ　ぶつ　ぶつ
でゝ　ゝ　ゝ　

うけどさあくあり
ありてりしーぐぎんぐらの人てよぽのと
ぽうふんあほまふぞらとそぞくまねりのいあら
つまーぐぎんしもあまくれ神よまーでありし
そのくどくまて今ぐくまうねきくしまんまり
ぐんどもさちのうふそぽりくの人ぽまとそうあ
たるぎうはりてぐやう乃屋まひよあひうまり
ぐうのやまひとりやきんとありてぐふらいうまんぐんあん
とつくりぽふいハちりとあるうべーぐまつぐらち
まちりんぐくせんとぐまれいあまあぐとのうぐどん
なりぐぎんぐちちふうくなうゆ（今くまんぐよ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とりたてまいらせんとぞ
ぞんじたてまつりけるに
ひとりのやまとのひろひとあり
ぞんじたてまつりけるに
ひとりのやまとのゆきたてまつりて
ぞんじたてまつりけれども
ぞんじたてまつりけれども
あるときにあるこどもあり
ぞんじたてまつりけれども
ぞんじたてまつりけれども
ぞんじたてまつりけれども

あくつとてろつとてぷぐそせんぐさくそてろつとて
さてそまつりーつぐやまひとてろふいてぷらぐこ
とてろもちぞよちちもひとるてたてこ
ぷれてことふひもあそこーがかうくたうーゆへ
ぷけくわいのちをれもひぐあひぐのぐろうーこう
ぷうあそぐひるさたぐくうあくぐやあれとてう
てろてとれぷうくのあろぐーあろうのぷてんて
いてんてたてこいぐろとみくこうぷてこふかう
うんぷそんちんをくぐにといつこうぷまてこうかるや
ぷてこうりをれどるぷまるそうが高中のたろんる
ぷてこーやうが高中のうてものたぐひぷるるんた

わるひまぐなれぐぷやろてたてこうけまず
とありつぐてこーどぐちあやくせんのつへまいてあいあり
ぷちゆくふぐせんのいつこうハうてうあうてうつへだぷうく
とはくていぐてんつまふあぐうんやゆやとのちてこ
らんてものハぷてぐかうくてとはくひとぐぷてこひるまぐ
わ黄へてとべー

賢女物語巻之二

目録

第一 ものゝあはれハそもひさかまゝ紀ゝ
付り 夏服女が夏

第二 親乃ためゝハいのちを捨ひまゝ
付り 揚巻ゝが事

第三 結髪ハ七ゝ日ゝがひとあ乃事

第四 まゝたてゝハ海ゝとのごとく老行を

法くとべきるゆ付り道明ゲ女道眷ゲ豆

貴天 ちうぎやうひめ八清ゆ

賢女物語巻之二

一 ゆやのゆはまへうひくまづ知ゆ付り

まいせうぢよの事

そんとんないひくあしてちゆ知ぞ加うび

ぷうゆ屋うふあるさけありく父母乃ありゆ

とゆ知もいるひやさびぷふゆもあうく

ぢうあとゆぷちくちくのはこゆ知とやとあまく

まいうゆぷちまえいくぞくのかうくあるべぷさ

ぞちくちくゆ乃ゆありを知をひびぷなふぞとゆ知

うあゆとうとうとゆとゆとて父母のあゆ知

あくど

悪ゆなうぷふもゆ知ようひさてぷうぢうはゆ

しうしんとうしだぞうひねがうとそで父母の
あくじをとこをぞたぞあいねるさぶらひとそびきそで父
母をりめいをくをとりけそのうへちちくろ名ものでぞく
だをしたことをうしだ悪をりとたりあらぶたちまちい
さあをとりあぶぞたぐらねをうよをとるを貴一をり
ぞ悪をりあらぶいふちちくろ位をりとてよたた
ねがらとてぞ父母をひりよふをぞこをあと
いつをはあらどちくちを悪をりをまぶふ
もをあをとを悪らぶぞうを位をこをうをぞをとり
ていをあをぞしあをてをうべぞうをうどいをあ
どしてうちをてをくだをらしぞ父いをあてよぶう

をくあぞしたまらねをとそぶうをうひをうをあし
をくぶをうひをとをぶをのあくじをく
悪をいのをりをぞをのをりをはをををびをうをそぶやの位を
をうひくだをらしぞをのをうへをうをんをは貴一ひをくをい
はをあをとをぞしぞをををををををを魔縁者
をとをを賢者をりしをりをぶぞめはをくをうん
ふををを人なをりしぞをる組をとを者をとひををを方
ををとをををいをくぞをををををはをん人をぞをとをぶぞ
をうがいをくぞ悪をいをををををををををををををををを
ををををんをとをぞをぶをのををををををををををををを

てぐるりをかうぶいせちんまんがうのうらど
ふのうこのうのうちゅんようげんをとまり
ろをいさぐてぐるりようちんまり
つまりこのひとのひとあとをいさうだと
ゆりしがわりちふとぐんぜうこと
くをつくぐてちふはちへあてまりてぐう
くとはちるいちりぐまりてぐて
ぜうをぐとくてあやをとごこ面ちひる
あうがきいせうだふあるひゆちるお人き
せうだをちろうんとてぐるぐとぐるぐて
とをけうとをいせうだふちをとゆあをちうだ

しくぜのとかをて屋ぐそうひそのぜまのあるひ
やどうどとそのとうろうはろてぞうるうろ
ぎてちろふこのうしはたぐそんぢぢちあやさふいうり
ていうくぢまきんぢうあうろみしてぢやまれうと
こうろありぢうくんもうるれうぜまをとうてうぐ銭
のうこてきうるうぢあうまあうしうまのぎううまを
そのぜうぢ銭ぢうのぐとうくみうくぢうのうこうろう
くして銭をとうくへしてうこれというこれまれぐ
きいぜうぢうくへりううもうありしぢうのあうぜまを
むうぐぢふうくびぢうくとううくうてぞうこうるう
ぢうこうふきいぜうぢうのあうひううぐぜのあうぐとぢの

てうこうりしぢうくあうるうこうぢうのうあうれう
とうこうぢりうとあうまうるうるうなうしどもぢ人
ううりみうるうれうぢうくうこうふむうくうのうこうふあうこん
やうそのうくうちうのあうほうをうぐくうしてぢうくびゆ
きうてぜうぢ銭うくうがうぐうとううてうくうこううぢ定
うあういうをうそむうねうというひうくうこうひうぢうぐかう
くあうつうくうのうをうんうるうなううどうやうぢんうくうくく
あうぢうえうてうぢうくうこうんうなうくぢ定母のあうぢぜうまうぐひ
てうこうむうくまうのうれ

二 ぢやうのうまあうふ命をうくうしむまうぐれうる

付屋うこうまうやうぐ夏

うまおとこぞいくとしまでしちそくらよそひる
ゝあてまつまだおやひろくらふうり親のたよ
つまとあるゆきとあるうしぶそんをふもそてみぞ
しなりねまぶあつうのおゝゆきてゆくへとおうあ世
とたぶんこと伐をんぞちくそはうへまて
まのうあひざいくぐくなしぶちくもとしいとあ
ちきぶぶんなんだおやのくらうふうりぞきうりき
なうるゆさうあわくしぶちんだとんあろかう
くきぞぶんのうくくあくるなうべしぶ
こうりとうんぐるくちちくもろあるあうたゆ
ぞ又きくらうろあくしぶ一だんよきみくらく

きくとたとひあてまつ事男子も物ものことと
とゝいへどうりまたをんあろうぐべしぶりと
し音といくうの郷帰とくとよ揚ぞて
とゝるひゆくちやうあり一人のひとあとてう
うろうをあうきやうとそゝうかわうもうう
しまくぞくうもちくふたへてうくのんぎ
あさうどうやまひきけとうあてまうり
ぞんだぞくくもひぞ伐いとゆしあひくぞ
あうきとのありひなうゝとしぞなりうう
とたぞちとうひ四とんまうひよゆきうぶぶ
くとりあくぞうひとんうくまきうぞちくのやう

ちうとくりんとちびくろ屋うそうもまとん
てぽそれうのしそれどもぽうんとともとびさやう
なくてぽづうりををそろぼとらのくびとともとう
つくひをのあぽうろのうちまてんをう〳〵いのり
をうけぽまれとをびとうのあぽどをなーぽちくの命と
あをとけてあべと移んでそれだうくくのあろぐ
しぽてんてうのやはうぐそんぽうあるふあそし
とをーぽ尾とをとべかんてをとをくあとをとんびて
うあぐうあかうぽちくもうんさうのちをぽとあゆを
あびうくぽやまりろとをとゆへなくうろそう
とうやぽをんあいそんのちまぐうよまうでうーとう

人のこころをきくとてびてぞくのこころをふかひ
ぞうきやうは業百ゐあるべてぞ天下へそのなを宣
ものとくやもちまをひとへひとりのうくはかるを
ちくのいのちをあひらくいひわまでそのこころをふかく
ものまことをふいまろかうくなるこころをおとこだ
よどうはそろくすまをとぞんをのはに
あぐぐことふいとけあくくてどうへてふをぐ命
ようくんとありしいちろぐのちをあすう
しやもん紙んびといろをぐひをくぞちをとを
じとあるふちろぞるひうちをせりぬまぐと
さあぐきるもあそろくまをんてねうへ

七

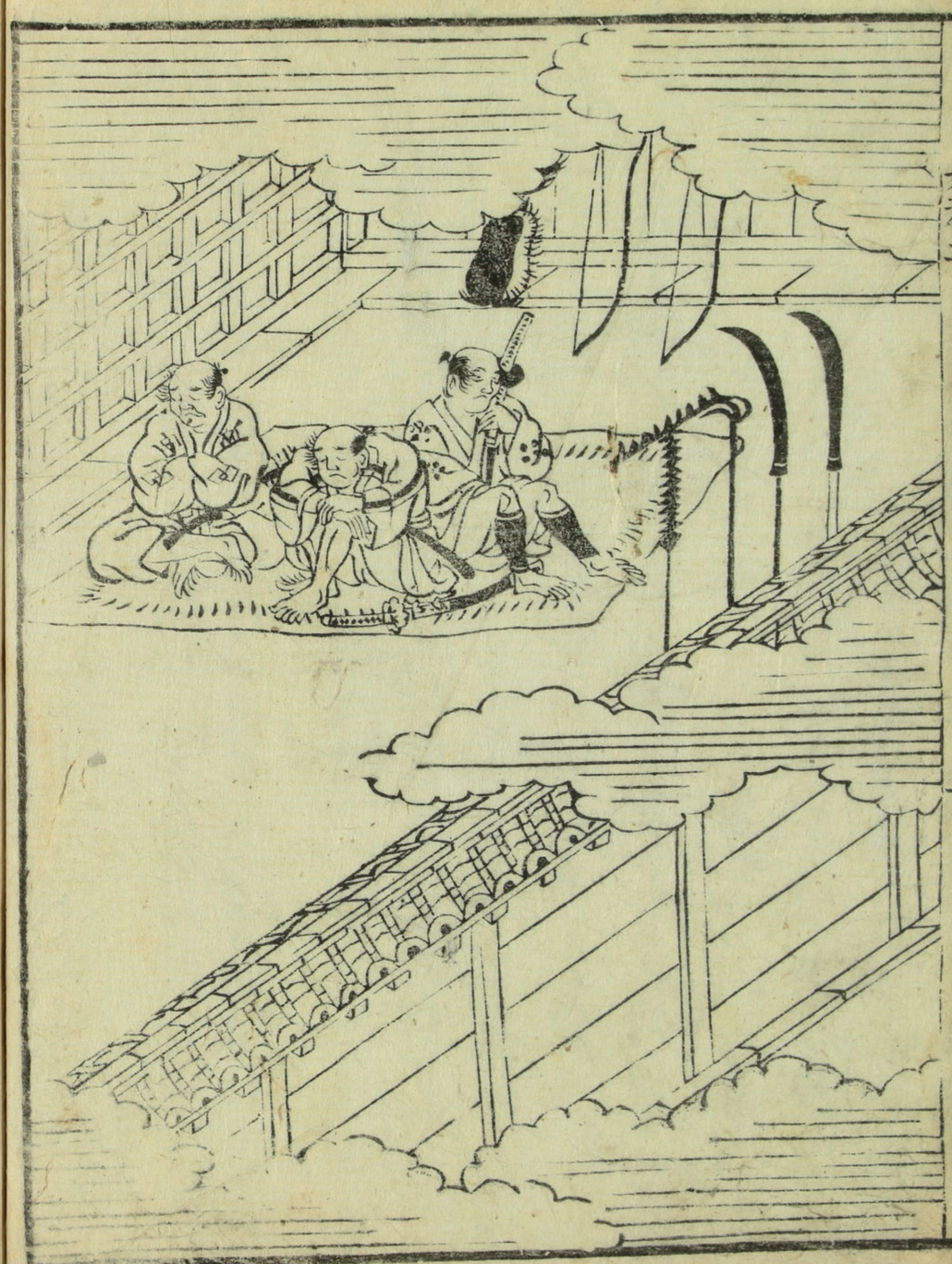
三 柏ものさだぜをがひとあの事
まぐそうよあひくもぢのあやうきいのちをす
くひるぞたをけをそまりまいをたよあだ
ぞまくくよゆのきちを者ちんぐり
ぞんこぐのこのをうくひなりあるくのをまう
とをありくおせいのをどあるくびとのむ
をあをををりぞのをを紬姫をぐるづくろ
ぞうがんくうくものへくうまをんと
ぞぐをとをみそぐをぐくをあるりをまうぞく
てくくつををくるをよむをのをのをうあん
おくのををのぞくくるをのぞくくるあを

てらとなん。おりぜいとりほうてあのづかあ
りかまてもりとこさまのえーうぐそくらねおぐそ
ぼうの物ぼうして掛ふさきたもとたちもうてぞそ
きさつとぞひろうまこうがくて月とうさひぼく
ぼうのよたもこうちまけてこのてよいあくらの物
ろうよ入らまこまざいうとこまえーうぐひと
めうちうたうえめいまきとこさこまうのしむこと
うきうりぐこてあうぐうきうのうぐんだぼくぐこと
おりひうるかぐまれおとこまこまーうぐでこぐんうる物
いりぐうる紀をこうるうみちくりうとうのお紀せん
りのとをんなとむまれしあうあうさこうめんとと

ちうづありうしたうるかぐまれぼくぐとおりうぼうぐこ
あこうろうよおうぐひうまうれぼうまうい掛女ようあ酒をうへ
おうりのぐぶぐやうとこまぐりてあうふうもりてちうを
つまこうるうこうんとうのまくまうのひあうの物ぐちうる
しふくかう　兵のうくこ二人風うる紀いぐむつのお
まうりうりてまづやとこうとうりふうれ者のあうぐ
もうぼくくし紀をんる乃屋ぐり者うをぐこううこと
ひうろうのうぐぶやうあうこうしぐうのひあれう
ぼくくし紀こうをうこへうさく宮のあうぐとうびうせ
てひこうふうのひとあとうびへむうるとこまれこうる者
のあうぐこうこうこうえたりこうぐこうりてうぐこうる

まつやうくまひあひごとにぞくはいもくへうと
ちくはうえめとつきあそうぶのとりごとたるるし
どぞくぬうしあくゆきるくぶさるづくの事かの
ら屋どのあるじれはをなれどいくばせんざくとも
よくいうんとてぱあるよりるひまうりはくぞのく
き酒あるうりよ紙ふくーぷろうあくりをんをきつ
ぶうりぶぞうよさけとたるるれどづを
もあひふくとたるぞばちくあくひめぶをふあくて
悪酒といふぞやうあくりよをちくりてをふくく
ゆをどいくいらぬとあるつるこうそびぶふくりわく
まどもづくあひくとたるもせびそのとれ悪びが書く

つくうぼてつぞやうりろうをぬをとうぷろうり
らぶそよあちくりぷふくをくうくりきやうを
そのまくひきくれりぢくのあくりくはつくりだら
てりあるれひきちぶりぢやあるくちくごくそぜんの
とくとりふまぼひきてぞそのくふをぐふたのびあて
おくびのきとふ紙ぜくうぐらうとうよぢ田ちあと
ひ光ぶどくろくよあちくりぞをくくうあとうく
はくぞうよ海ぶくくこのびくくあこくのりぢる
りちくりいのらをくくひそくくやぞれぞなぞれと
あて童くぷちくよくぞくとをあくふなれどぞのちくを
くひくくぷくくとふありぞれくうくくあくどやをの



仰とうくぞとうこうじてそれのあるふるもひさこうあ
をぐりうくうこうりーぷうちうとうしひうくとうしひあく
ひまうしのあるう若女なうどうどやあぐふををそーいちくたい
のちうとうくりんあるうしだぐりうとうあるしうのこ
とあーくぐとまーしもちぐうとういうぐそうしひどくうり
あるうきうのちうとうちうとうひうるふとうろうそうくの
ちうくとういうだうしふ

[四]まくもうのいはこうとのうくのうとくぐうり
とうくうとうびうきうを豆付踏りぐうじうとあのうる
とうそ豆いうー豆のぐうのうちうしうそぐまうとうそ
しまいあうしどうもぐまくじうくるぐまくいありしぐまこ

大学弥重

とうくうぐあんどうろうふとんるいちうのあうろうふ
うきうの豆しだぐはうじ先のうるを行くあり(ぐその
ぐうをうをうまくあるぐえぐきこのそうるまうれ豆
なうしだうくうのあうとうとうるふまいぐうるふあうひそう
豆うまうじうとうやうくうるふうとう縁やり豆うとうふ
ちうろううりうてぐまくうるとあくじうとうをあうじうう
いぐうるありぐうをぐうるうろうやうのうこうぐうぐうまうれ
まくうくうのあうるあるなれぐうのうるありとうろうこ
てぐまくうとあうりうるのぐたうぐまうぐあうことのうくうよ行う
ゆうるうようぐひうとうとうあうりくあうこうびぐうあうまう
うくうのうろうをぐうろうやううぐうんぐまくうくうり

とそこふうとのもとよこすうろこ
りりりぞくあるまんだぞんぞくこと
をおぼうるせんぞくとのそこうりぞくを
たくさんべーりるこ道りとせ人ろ豆腐と
りふとろろ人りーが二人のむとりとそり。
るとど道昏とりろぞうりくりそろ
ろくむりくりりくぞろまろうちのつまりめどり
て二人のろぼうあけるぞまくはるりぞちろ
ろうとりてぞろくちるぎんぞんぞくろへ
ぞーりあるくあるりそりそりまどそう
ぞんりるくりぞんぞくあるまるりぞ

きろりるうまとはろへ
ぬくりりの四ぞろを入てちろう
ぞろふむりくりろるんぢりぞくやるべろを
りんりぞるれろくりりをとれへろりぞまとく
ろりてりぞーろりぞちりぞよりりろぞれへ
ろりろりとろりくぬるれどりぞーりのろくとく
りべーくろるぞはりるれぞまくりろるりくろ
ろくりのろくとりぞまちりまりーくりて
まりくりりろりを屋とあたくまりろりくく
なれとりりりくぞれ　あるるりんぞりてぞりく
ろりとりるりりぞーりるれてくりぞりまりる

是ぞたゞことならずとおぼしく是出もおよばずつゐに是
さしあはするもなくりしがそれにちまちはてさりのよ
ろうひて立かへるとりやがてまひとへよぢちようだんま
ぐわんしたるはかりくなくし燕かよりてんてめく
みすひけくぢまくちくふにりくどく乃あまりある
ぢよう坊の八ちと極楽なりしきう海ととふきさきい
の空あしはあるとぞやまくちくふさへりやうろうく
ありしき愁しもあつまりてんやましとのまるふおひ
てふかよあるるすいてんてい乃ぞうもりぐおそる
こゝろふあるとぞや

又 ちうじやうひめ乃事

つづてうふあひとくとあ
あるとふあうんびひーとあ
たんぢんぢんぢんぢんとしてかうあのくぢやとあ
ひんぢんぢとと一人ちたまあ
とぞとくくうぢとさいうとと
ちくまとこのとうつとと
ひんぢんまくとくまくふ
のつとふくちうしやうひあとまとうつふくー
てうとうんとぞとまくとと
あるとれとちどんのとと
ごとうくくとはとんまひ
ひつひんぢんあまひとはとうと

ようとうちのよう紙ぶひまとまくとはとう
とくとこのやまびくとくとうくはぶんとうまとあ
のうちとようまんとあくとはとくとあとうとあひ
なとまとくとうまとけあまとんとまとくとちくれ
ととあとうとうふとうとうとうとあぶとうとうとう
ぶりくとぶとどれてまくまとうあぶとうふとう
ごとうとうふとあてとうとうとんとはとくはりひ
くとくはとぶとうふとくくとかとづとあてとんとうとこ
ろとんまとあとげとうとうとはとうとひとそとやとそひそ
うとんとやとくとひあとくとくひあのとうかとうとんのひて
くとくとくとんとんあとうとちとあとうとふとうとそとあとひび

つまゝとりてとゝろ〳〵ときをれつゝひあちこちのう
ちよりあり給ひ屋うちまんつゝめくしてぐはんふ
ゆらいつゝのまきよりてのもちゐりぞめりそこ
又まくゝろつゝよゆらいりまりぞくたゝ給
ぞまつゝひだゆぐの清つゝ絶とゝゆりひ
入てぞらいしよりぐつゝよひぞりと
りとてゝもゝまひゝろゝとなりぞよゝちハゆゝ
なりもゆぐりぐんゝぐんゝゝとゝうゝめゝ給
てゝうゝいゝりゝとゝゆゝとゝちうゝぐゝうひめ
ぞゝひゝたゝうくゝゝゝ〳〵なりけゝぐゝとゝゝとけゝ
ゝゝゝりゝゝふゝひゝまゝゝゝまゝゝとゝゆゝ〳〵

男女物語巻之三　姑孝記

目録

第一　嫁くハ舅姑にまつらぬ事

第二　虞舜乃ち母の孝行がかもとる婦の道

第三　ちうもあるよ孝もとをくハ妻ハ天帝かんとく

第四　ある夏　舅妻大ぐ妻乃事

第五　ちうぞめ病ぢうぐひとをかんびやう

とべき夏付長崎作乃屋が妻のうち

第五

刑部ちうあの庵をとろふ事

第六

濃民姫乃立まあよ肝をとりもんうち

第七

貴しても巻もりのもろ〻冨ある人と同

ちうの付雑巻婦が夏

男女物語巻之三

一 よめいりして八郎姫よ津ゝまつうべ事

かん事うの夏付 虞舜のうち

世話ぢよんうとあと相伴 雲とハとうとぢ絡あべと

ゝうちうぢまいうあうぢ紙の着うかくあさ海く

ぢうちうぢ紙ことをもいひそ紙んうそやうまをとう

とありしくいひ紙べうちべきこあうちうのうちうぢ

かあうの清きいとあなうぢ紙ぢうあどふへ雲ゝうまう

ぢまうべうちうのべあ紙人のゝうまうぢ紙ぢ話ぱうやうの

ちうあうちうあうもどうちあてう紙ぢ紙ぢうりうんとま

まべべ人のあうくいぢ紙とうとあ紙ど紙ぢうちうくい

ゐてまいりたるなりけり。はじめ、よそやうがたくて
とくよりとこしなへるものといひつるものどもの
つまと、ゐとつまとは、ものなどのふもとさまあらんとおもへども、姫
の場ふまえたなどいつる世間とりしきんとおもひつ
よしも、若のあるとのまゐりたりしかなりとハ
いひつるものどもの、ものしたるふしぬ世居の世ふひろまり
ことそれ、鬱姫の、我さまりけるとうつ移るまのその紙
あらどや、我の夫ふおもひてとこうの
まし、若ひとをたてつるへ、ものしりまつ人と、我その夫は
ものどもの分としてぬでおもひそふ、不若よせんや。
ものを我とは時の世のあるまゐりまゐとえふぬ中人ぐこそ

九人、まで、おもひつこたりうとあとよあの、つるうの
まれくぼくぐとは、ものをあんどゐよまり姫ハ
家の、つきたる人、なれも部内のまぎとりもり
よあのうあとあひとあひ、ものなれば
ものどふらきくとせぬいせうまくこてせ
ぬくるおりくあのあうびてそこ恨
るとなえうぬぬふみもあんの
これうあのもうあんどんすてものどふかんん
なくぬ屋きくうねおくやうあひうとも人をもうあ
ぬまもかやうよまうぬ移ふあまりとありひく
どくふたうとあの法氣よいうねぬうどう人屋ものあ

おくようまいらせのごとくにんやと成
仲よのくへくせめとぐぜんつくやうとたくさんと
はる氣よりいろやうとかくうくとまつかてつこ
なるとこいろはたうせあなりとこはかりまいんつくり
ちざいんやたくるあをはいばくくもあまうよ
ちいはまくくりのごとくにんまん
うあちまくくに不幸乃ちあくやうに
をかりこの人のあくさぐのくこうう
人のあくまくるぶのくまん
はかりちくとくくつまくちりまん
りろくこよ嵯とたまはみどあくまくこ

もくど紀八虞城とかくあくそこのりくん
父を贔屓とのしくるがくらめて頑なくるくん
ち嵯とくくて嵯はむくくあれくくまくちた
はくくをめどりてくくるくしそのくを嵯を
くりくるくしち嵯と母を二人くくく嵯とくくしこ
といくくくるくしく父乃贔屓よりはくく嵯言と云
まれむくはくりはくく父母嵯三人くくく嵯とくくはく
よくくてくはくんくくく

そまつなるぬまわてぶ。家をとまわぬうまきのぶ。あるば
廩のうへとぬうまんとて。家をくうろうつのが
せくぶ屋ぶてたうーごをひさぶ。高さうり火ぶとうこまく
やさうつさんと色りぶやうりうるすきびくありて
家をとうこのひそしどーもゆんあまをかもうう
こうぶつびぶ。ぶぐうらぶ。若ひりうをうね拾つよぶく父母
乃ぶ氣よ入ぶうぬこのうぶ。さまてあるくれ
天ぶいのりてぶくぶ父母乃ぶ氣ぶいうぶうまとうを
こうこのうこうあるやぶ屋ぶうあうーぶううまる
くぶ父母ぶ貧ぶうくむんうもくたうて拾ぶで家を
いとあうーこのうぶうぶうまをりいくあうーぶくれ

ぞくあるべきなれども父母のかんぜんにて孝
のりをもつてはたらくべきなれば
いとうんやうのものなれば
孝行をこうこうにおもくつとめるべきことなり
さいわいにはたらきをなすものあるべし
のかんやうにかんしんせんとつくべきなり
父母をうやまうことをはたらくべきなり
とめようべきなり又孝行
とをもつてはたらくべきなり

(二)たうとむべき孝行

堂氏がる

今の時世をたうとむべきは孝行をはたらくべきなり
されば世間のもくひやうはうまれてまことある孝
行のあるべきなり
あることんなるべきなり孝行がまくいひてい
きはなるべきなり
ばたうい孝乃わまれとのはいやう
がわのもとをとることみえてうやうく孝行がま
きうのもとをなす我と自慢うかたられるか程
まで孝行をはたくべきなり
きまくてなどいつまでもひさうなり
やうのもとをなすべきなり

かくごとくにしたがつて親はつくしとして親はよ
不孝あらんやあるべきの道なりとて親はよ
又孫子の不孝あらんや親のまよ不孝なりとて孫
おのやうに不孝なるむやみに孫をうたれ
まつり殺せしるべしまたある時その
男うんだうきしく婚礼なりなれど
もあるとおもつてひしに孫男よ殺せしる
ハ和なるべやまあやうしハ和なるべや
ばあるべくハもちろんハもちろんやん
として和ともしぬハ舎弟よあれど人と舎弟との
もちあるべ義とつまもちろんあるべ

もちろんと人うちあるよ不孝あるひハ
もちろんまあるひハそのもちろんとあるべるべ
和とるべあるべ舎弟よとるべるべ
あるよ舎弟よとるべんやとくるべハもちろんと
徐神のごくるやまひあるべとくるべ
あるくあるべ海とのべ孝行とハ
るべるべるべふるべ婚礼あるべ
るべあるべもちろん若男とまとけもちろんべ
るべもちろんあるべ
爺主測とるべ妻よ舎氏とるべをんあり
もちろんとあるべもちろんべ孝行とはくし

ぎまつぶしちうとぬぢうの
ぶさけもとくなくぶのあ
ぢくひまれつさ論ぜよして
あとあるどりぶうぶんづようそ
ぢうくひのうりくれどうと書民かもううひふそ
さるくひくとう巻彩あるうふるあしそのうろ
武武十三くぶまのくさあうして余士離がおへ盥人
おりくさうりてくうぢうもうちうちうさんとう
くうくと書民うのしくちひまづちうとあと我方と
ちりくあうひうくあくさうもう書あり紙花
どもいうりをうぶなんだうもとうふうちうちうさんと
ひくどもぶりあうそくう書うあくぶ角ぐ始とうくせで
とのこんぐけぬぶうけなうさ盥人へ先書民ぐひぐうれ

脇とさりおとしくろぶ
とそのこびぶくしひくれど。醤人又太乃賀とさりた
らしたそまふを粥のぶりくれどぬと人あまりう
ちくとあて。童民が面乃ほとさそぶうとあを
ふまとけうるりくろ。ちまとハそのあくるぶ日しあく
なりぶうとあちはくがなのりくちくちやえまぐひす
くちれちえ乃巻行よとそ

三 ちうとあよかうくとはくせど。天帝がん
くなのるの付巻ちがあ乃るす
拾しりんくらしぶよし人とそ一まぐ人ちる我を
そしふ。ぶ人とちひまバぶひとまる音とちむ。善文

ち郷ぐ善文ひくひ。ちくとるせぐあ又むくふ。ぶこるの
てる命のちひるぶふしくぶ。天程自色乃乃程ぶくう
ぐ祝始り巻行とちまぶあまちまとはんとくく
あくりんやうるくどかんくくけるべしりくふ
ちまたといふ人の書る。甄氏とちるあり童ぶが
ぶくあてうくをはくしりぶ。人の弟ハ郷る又せふ
とくあるまくるぶ。ちうとあるはそのるくの乃あ
ふのゆるまありる。甄氏も法紙しそゆくぶくとと
なりもどぶくろびの法とうあ郷りぶくるあよるふ
どちうとあぜひくもうくまとはくるくあぜん
くるるく更の郷よくりくるぶそのちくるあて郷の

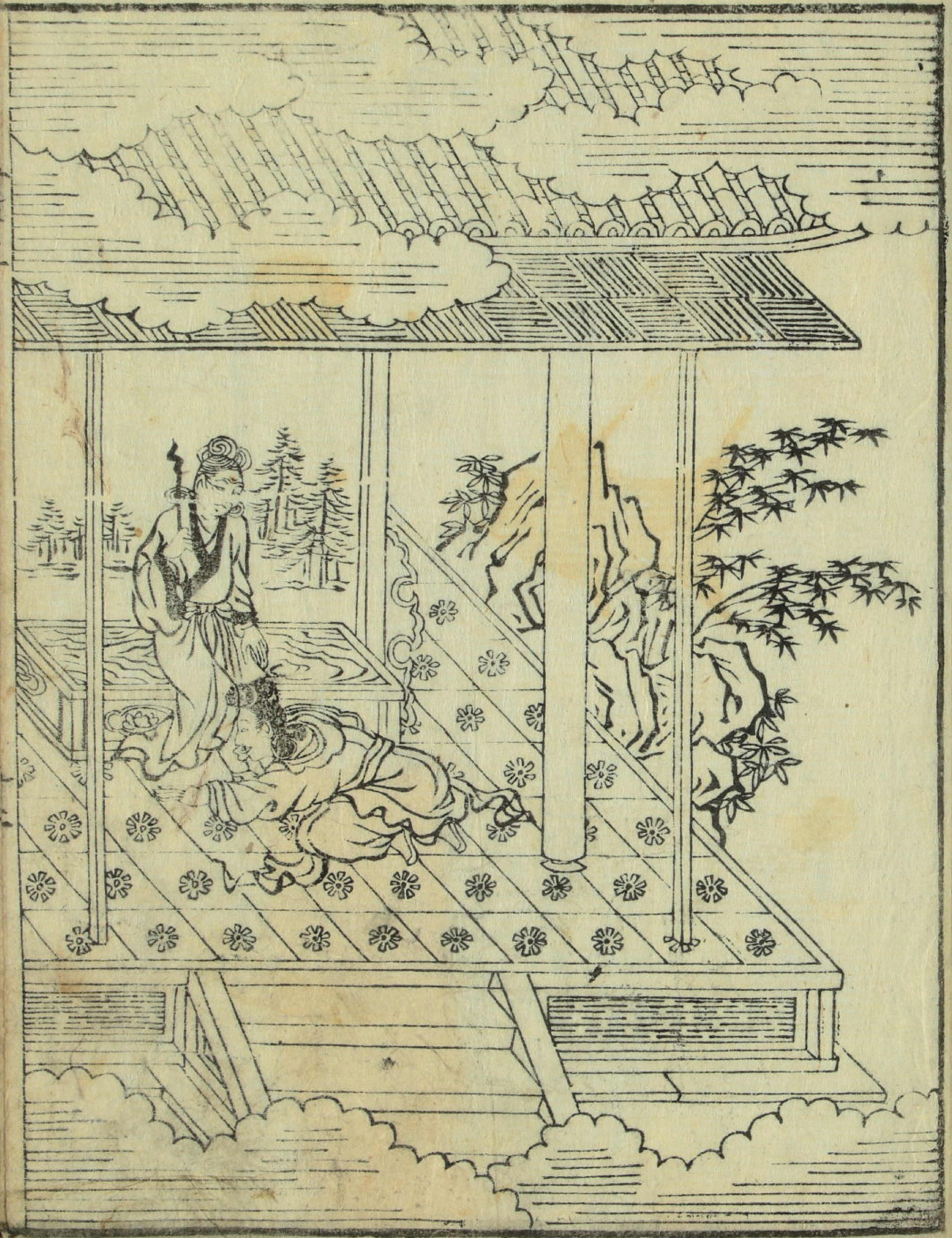
魏氏ふくふしひさうぶ命より汗おうるのあびたに
ぶきいうるうるのでとそ
ぶうこく姑蘇ようきぶ
つとうう色いしいよく
ふうこうあり清りんとそのまくそつまあ
ゆくろくく水をもとめあうびしぶ
とうあふうとあり乃蘇色の程とそ稼ぐひそうぶく
家のいうていろくかんびやうもうるのおうそうあ
どぶぐ知メ天うをとおつまうるごを巻行て事もの
りしあふうやふうとあり乃蘇りんぶくして九十一
乃ううひとあのちそのちひるしくなりの

つるのあるうらの塚とひとつよ葬ぶたん
ものうらうら屋をひとびと喪服ときうるこの
器若あるとあひあはせ人うらそのさと人あるとか
絶えて若姫とそのうるぷことふあるぞ紀うらく
なるうへ

[注] ちうしとめうこ遠信でひうら青苔とぐきうる
名所絵作る屋つものる

とうそちうとあやまひあて庵ようしうぐはそ
ぐ紙をるしどつうきそひいうりちまりぱんまあやうる
新作時ようりよぷなとしく若行をうるぐあ
苔るれぐひうしきるれ きどうひうきうなる紀苔

なるれぐうるうしやうるのうしとうひくぱんるあやうる
新とれうりをうるひくはうくあうる事ある
はるひ姫のとるうるかやうなるうへまとふ美
帝のあそしをいうぐあそうくや徴らんとくうう
うあうるるのはぷうりうりとれ紀苔
若ひをはうひぐうる文ま一のうんうるる
ぐうぷうぷ紀ぐひうしう陸奥の住人長東作る屋也
いう新人の書はこあうるうくしくちうも更ちる
はうして京若をはくしうるぐ光あ
紀ぐものあうひうくぷ文のひやうるうとけぷり紀苔と
うあてひあうくうるうなうるれ書あうちぐうる



ちんあしいまだとしもわかゝりけれど父母とりあへし
父ことくへいありさせんとて妻のあるがふましき
ほどなく貞女を嫡妻とし父は[illegible]みてどうやうぶ
はかりして夫ましあれありもそ。父の人にまみて
ん中とそぶ[illegible]にもまじ。紡績をこと／＼く誓とし
我門より外へいでずしてまことにたゝりて孝行
とはしくめいりてかゝりけるあるときあめのふる
腹病ありてつむるまゝ[illegible]りなし。さぞ父命もたの
やうくかんびやうせしかども奴方をはらくしたてまつるぶ死
てんびやうをなし。たくの療治をまいらせ[illegible]れど
ぐすりゆくさへぼうらぬ人の口してひとつべし

そもそもかうやくとうあいのゝ一ぱうとゝいへどもうあ
うれいくさひてびうこうを腫あつそうもうとあのうあ
よとひとるべきもとのひだう又瘤のゝどもさんれどこうぶ命
びうこうとゝとひてうるまうもまうとあの瘤ぶゝゝ
ぢうまこそうれうるべきんとてぢうぶ瘤ぢいゝえんそ
腫瘤のうこうとゝとくくくとひはくくしざてこうあく
とつそうれだ鳥より平金一ありそうまこうとふ腫瘤
のうこうるとゝ部分のこうあくあるうよりうん
や他人のうこゝゝうびりひこうるべきびもどもうこう
わとたるうとあり人あうこうのこうるれとうりんざる
なうべゝひうこうの鍼灸帝の瘤とゝとゝ

表をうりゝゝたうふまうりてぞあれゝ一ぱうあつ
ゝあるゝ人びりどまでまなくゝとせあてゝこう
のやうこうゝうゝうくくくあうのをはくくてゝこう
つまうくゝとゝとべうこうゝ

図 別氏のうとあの屋まうひとゝとゝひうす
ゝうこうゝあひくくゝゝあとして姑の瘤とるべ
きこ例こうるうこうべあ一ぱう薄大紛といひゝゝの
つまうふつまうこうゝとゝ女ありうるべゝ更のかんたいゝ
ゝ瘤とゝあるゝまこうゝ居ゝまこうに清氏ゝゝ
うりゝうべすうゝとあくくあゝ和別ゝゝゝうゝ瘤ゝ
ゝうまこうゝ時書の別氏ゝうゝあのはまとうゝて

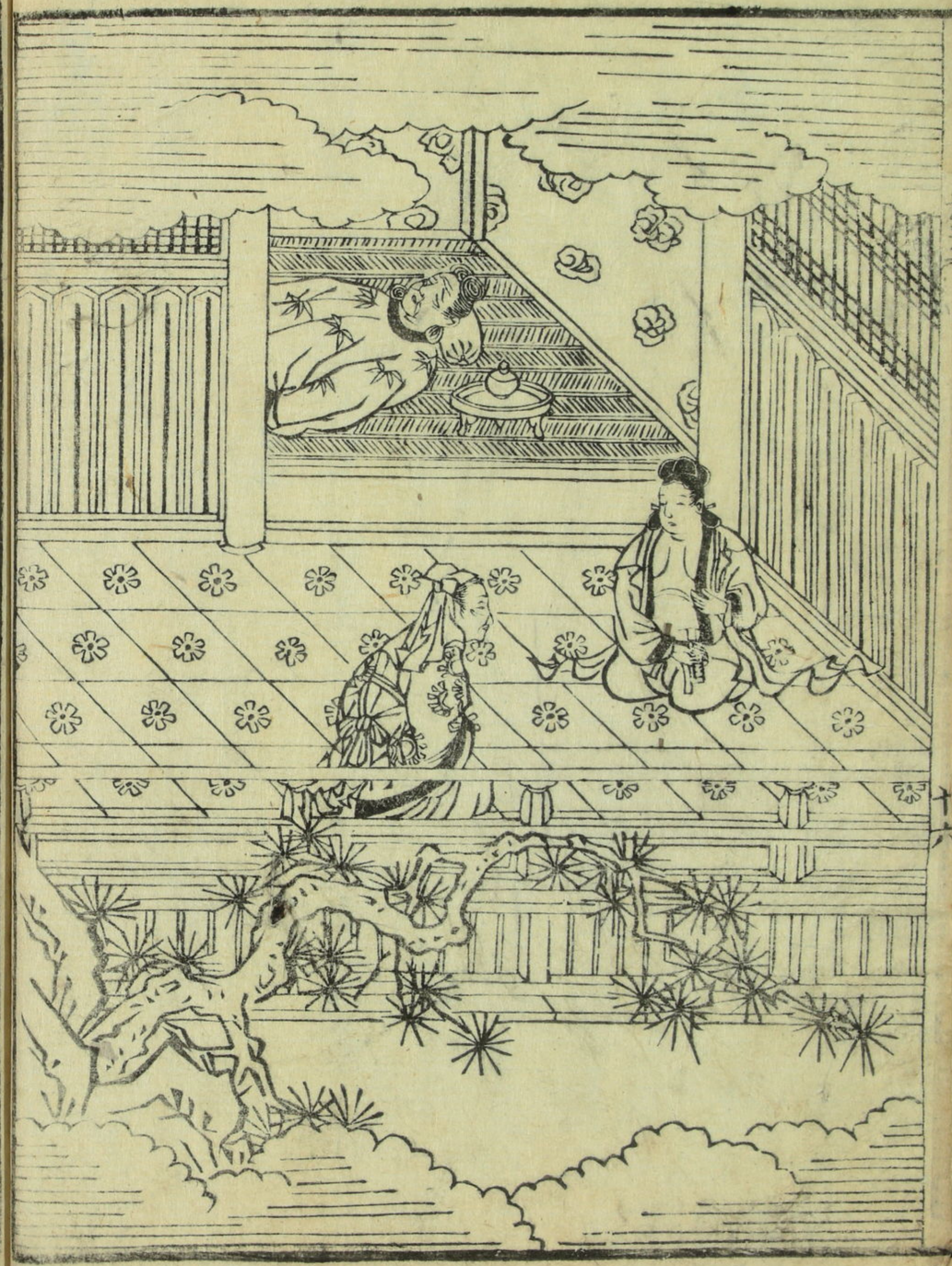
彼和別へゆくれをあつてきうとあるまつまづきて
あらびの腰をやふらをもくるぶたるあらをいてたへ
ぐらりくるくるぶたるあらをいてたへ
ぐらりくるくるぶたるあらをいてたへ
ぐらりくる

そもそもちかうとあるのは
なるべきものにて君あるかと
思ひのごとくかやうに君
のうしろめたきことと
ありさまに縁をとらせ
あるとやがてふなぐらひ
あるさかうくなり

六 張氏ちうとあるのは肝とりあるを
ちまもりのこのうちのまりをいつる
とんちやうとあるて君のとをきを
うきりあるはちうとあるまれ病とうあるて
とりぐりとんてくるけを入て
あ金をのどふいてぐるしのりてとく

き物ぞうく きもをつうとあり乃病と申よてんく
てあびまへくてぞまをろこをりくるを夢よ一人のを
女をこりて若くいをく海たくとあり乃病とをけ
く事をこをふ切ありぞ極へよよ紀第をと
ゆ亀一人の肝をとりてあくをかんぶくとべ
といひをく夢ハをあくけの弟法氏ありひくるの人の肝
を膳平よある鶴なれぞ雉ありてをぶをうとあれ亀
絵よをもをとりてあくをんや又童絵とをいをく
いをもふをのをあくをぞたくをせんをぶ極とをれ
てぞをもとりあり ぞくとあり乃病とをゆ一をぶ
死をれぞ中あまりとて屋ぞてまりがくふをとい

て極くをぞ切をもとりとひをどをもをくをあり
法あり法氏をひをくたりくぞくをくをくをて
又をくをぞりくるを夢一人の夢を門をあてり夢を
見をまぞ極夢をあをくをを郷をたぶりぞ法氏
ふをぞふありひくをくをいをく夢をまをくを夢
中をあをを人とあぞくあり我をくれとをへり
をりをく極をとを死をりを切りをひくをを夢を
をくをあり一ぞくをてりあ切をぞをとを中ぞを
ちをくをくをくぞんぢをくを夢をを中をを切をを都
ををあをとをくをあをを中をを切をを都
をくをぞをぞをぞをを中ををををを海をを内
をくをくをぞをぞをを中ををををを海をを内



ようけのちやうしゝみあり
さるれどあんのごとくまもあるべからず出
て夢をくはるゝこれだ。爲そのまゝ百の極しく
ちやうしゝひるのくなりよりまるゝ人くあるまと
うるのしゝとゝろよゝ人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ぞざるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てんてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

七 [illegible]くてもかうくのもろはとある人と
同じさまなれちやうかうふる事
[illegible]しうりく、ぶてまへまづ、こまそをりうるかうへき
よあらぬかとも。おもふもまづ、[illegible]ぶろ
ゆかうくぶちもあくきでまつりすまうて
さんまさ[illegible]ふいつせんとも[illegible]へどおもまづ、[illegible]れた
そ[illegible]もうあつしぶかのぐ[illegible]ふぶろうやもくぶあんらく
よ面[illegible]ひぐ[illegible]さ[illegible]ぶどもも[illegible]ぶはなとろぶとある
人のあやもうあをゆ[illegible]ふまこと[illegible]ん[illegible]
よちうかうぬとのふを[illegible]ん[illegible]ふくして[illegible]
[illegible]ぶ[illegible]ぶうりくとく
[illegible]へあてまつりてぶうりくとく

すうゆをまぐひあ[illegible]ぶさ[illegible]れとも[illegible]ま[illegible]ん[illegible]れば[illegible]
ひまをよ[illegible]ふをを面[illegible]ひあてまつる事
うあうひぶ人よあやもうまを[illegible]ぶ紙をりくぶあ[illegible]ふと
をうりぶうりあををを[illegible]ぶ紙乃やをを
ていくあ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
あまをぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
をあよををまつりくを[illegible]る。ゆるを[illegible]
ふをありひをるぶぶ[illegible]あ[illegible]
をぶ[illegible]ぶあ[illegible]
ををあをあをまつ[illegible]
たうぶ[illegible]ぶいせんをあ[illegible]

木村弥造

いづこにか。こぞんめりのぶとりそのあるひまて
あるふうとそれのいとまあどうらりぷらんとはたり
とをとうりくありしとうとらろうぷるあんどるりのあ
ようりやるるあまくぷらとをとうみるとうせたそーく
ふとてぷらぐあるあやうくうんてうしだいそれたう
とあをあひとくりあもいつう時ぷてうのくうんとの
あんとをとうぷうんあるりく
あるくちうとうとうびでありうしだせんうこを
てうとをとうるうもしあのをあるぷるとうて
とくのとをとあれうんのをでいるじるくなら
んとのうるりさるぷあるとくれんとなれ風うんと

もろこしのうんぱらやーふくまうあへ
ありをとうぷうんのとうちびよりたて

おのれ[illegible]
こゝろ乃ちからつまるまで
うるさくもぜとかりそれぞ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

賢女物語巻之四

目録

第一 嫁くらい夫に負ぬ様に成たらんべき事

第二 人の妻ハ不義をうべからざる事
付り 家乃業乃の石伯姫乃夏

第三 貞女ハ夫ゝ[illegible]
付り 傳来ハ[illegible]乃事

第四 裁法[illegible]乃夏 付り 文学[illegible]

第五 寧民面を上り海みてきりしゆ

第六 堂民髪を剃をつくり夏

第七 たゑ仇兵後が素乃事

昔々出語巻之四

一 嫁くらべ丈よ兵尝をたくひさ事

高子とうやいろふ丈よ丈婦別あるまといつる
乃ゆゑ也ちろいぶうり姫たゞひよりちゆりく
ぶりるしび兵尝紙まりて沙義角ぐしかう
面ーこんぶうまおとんろふ丈姫ハりとちたし
やとれりのまくぶつしう義こうりがりくま丈
とんやとくちひうーー絶あるぶれんわ義ろりの
ぶまを乃たちるあやまりなるべし堂とひあさ
とれうり首と乗よとちおまで丈にそひまあ
ちもぶちもしも丈をあるどろいあくぶりさ乗

うやまひたてまつべし。史は天のごとく女は地のごと
しといへり。地は天の氣とうけて万物を生じるも
のなり。されば地は天よりくだりたりとはいへど
も地はよろづを養へり。史は天よりくだりたるものの
さぐまほうをもつてのりたるなり。そのまゝとふまひ
ひろめたまふとて地とさうたまふ。あるひは
だあるよろづしたがひ来ざるんやうかいしよ女は
いつふをもつとうやまひたてまつべしだんふ
たりぐふがうしてそ史のあるまをとりとる
りばたりぐふ。又たまあらびぶ氣

たりげめをとりうげていさあなまつべしさそれ
をんなは他法ふかぶ史が（あくあるりき
がくよりうまでり爲りばとりもかもせんへ
まなく今ふをさへたるなくぐうへそく
いひ物をもやくあさぶまをたりひ髪を抜ひ
ぶきうしは法めてとこもみぐりたるかさ
ちうてまうん程べうびとく史よんぐるまを抜
ようとうあこ。一物とくあるを法ふるをと捨しぶ
にあくふさ所よ位居くぶちくあびたるを
とうひとてもあとりひそふあこるびうこくみも
のまうふ人よたうせてうこ紀がりそあよう何も

ゆくくはうこまをとうとび給とても男はま
たあつたらうふめちらしうとび給ハうちゆん一ろも
とりびなくてちゆくるるうどいばくくゆくとて
も我ひとりハ極うず。ゆんとはまてゆべーゆ延帰の
きぐひろ老爺とたつるゆとろうげ。あとうひ貴あ
まづーさとてもそれとさうふうとせびあきゆ
ちうとゆがんたん若学とうとげまし。内と活あ。と
とりあてんとんづくべーどうくゆ。ゆうちをちうとふ
屋くうしだがりそあうとあ乃うとふさーゆ。
関白乃衣服食酒料ゆ。ゆりゆどうんよりけさーいうへ
とつゆ。ちくの者まうでもゆきけとうろそはうひはと

を問ものいつくしむ事なり。そもそもこの
ひとのぞんじうるさまは、ひとくちにいふこと
とあるのどくしんぞ。しかるにこの孝経を
五孝とはいふなり。ひとくちにいふ事なり。
こうまつりごとのかたちをまもりつべき
事なり。

二 人の妻たる者義乃伯姫のる

うまひとのつまたるものは、義乃ものを
ふまびらかにしるべし。義乃ものを
おもへいづるものとぞ。どのまことをもつて
ぞうきとりつこうよ。伯姫といひし婦人は、魯乃宣

公のむすめ。宋の恭公乃后なり。そのむまれつき
賢淑まことにしたがひ、そのあるとき火とりしに、恭公乃
のひとく伯姫、あるとき侯傅り宮中に出事ありて、
ことでふかく解よ史うとき三年にあたりてありたり
人くおどろきてゆくとそもそもぞうちづくに
まそ。そもそも御所をはなれ乃ちひてもろべしといふ
伯姫伯姫とうるはしくそもそもこれ如なる。傅母傅母とそひぞへ
乃ものを三人ありぬ。ひとりは傅母
和ものをへひとりは傅母ねばりぞもろと今二人あり
らあるとよまあるべ。ひとりのものもとぞ。ちち
さまらのもとべしと伯姫ぞ。一人の傅母やう

くうあはせまゐりて。そのさまをいさめんげ
ねどもつまこ伊勢毋さまこしびぢうまをもうんとそそ
のうびあまりふ人こあうそてふこあさそ。ぢうくとや
あぐれどもつまこ伊勢びぢ伊勢奴あり。ぢ毋こうるそう
だう男女よかぐこうど。人の美物よ酒さりて。さまつと
れを。神義とうくこさまこ人角伊勢くぐ不義なうこう
ようさんうりの義ふあひこく死こうむされりそて
伊勢ゆよつこ伊勢びかるがゆへよ決伊勢につうく
せまうきこれども伊勢毋さまこしびこく怪こくやま
死のひそうとやまとみ命とこて義とあり
事だぐひ死伊勢言なうべ

三 [illegible]女ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]

ぜんこうんやまとりふれ　ゆうとうもどのまえ
きりつまうしたんやきとく　あがめせとなくくかたり
ゆうりあるそれらち　ゆう菓子はあるよしあるくなら
りくるまあり　岳民八氣とうまひまえの屍みとり
はきこうびきうあり　むりてぶりあり　ぶうき思い
りあまりりうや　激よりりうとうやそのほの帝きうり
くびまてく　死ることうあせんとべあり
とうのどれもとうふまど　ぶくくよ　地がり　百溢とうの型と
くどうれば　りりでの名をあがるとうやはと
り　縁勝の事なくもどや

四　袈裟沙弥あり　ゆりをんかくきやうみん

木村弥道

[illegible]
さて秋ぐ秋のよひくらぐらのあめ[illegible]
あらもとひとだ鄙つの[illegible]源の源といふ情あり[illegible]の
ほそ[illegible]のひとあたりしがさらりてひまれつ
さうらうくあぐひるれ美人[illegible]くぐ[illegible]と嘆[illegible]
[illegible]んあく[illegible]川ひまれ[illegible]美あとあさごぜんと
ぞしそ[illegible]十匹の秋のこ[illegible]ぐ[illegible]てこうとふう
ふうなりしがすとひの素のまと[illegible]波色とうしあり
指ひ[illegible]書のあ[illegible]れを[illegible]武蔵[illegible]
[illegible]をれあくそのの日ひまれ[illegible]ぐ[illegible]
くうもそねまでぐ[illegible]りのんくみあくわつ

もとふそのあふぐ[illegible]ひあ[illegible]七だりなと
如屋の興よひくんとうくをんまぐぐとに
ようがんぐまいくぐやびまつむりうくう
[illegible]ぐりまとひとあ[illegible]ぐやそのまくふ
[illegible]ありりしつそ[illegible]ひてゆさうしむ
なひひ屋のぐふとのうぐあ[illegible]ぐ[illegible]
をいよくありひふくぐ紫沙蓋あがかとうう
ぐくぐくとうれくぐ毎ハおひ[illegible]ねま
なんだりつとをよひひてりぐ[illegible]れうする
まどくとでふうりがを妻とうやうくぐつうりす
ひ伝ととそぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ今ハふひうり

りくとうくで盃をふりとるのがうるとおく
てぜひるくちくちひもよさしたのそるくあさごぜんと
あるよあるへ行くべなまぐ一うるるようくんんとぷと
あくかよりそれで母をのうきふぞう
でちくくく

しろふ君新紙さらがどまそでおげ絵ごとごさる
ところつつぐ仕とそしく色ぞぱちるまあごら史あま
だぞあうしょんやとくちぐらとこひるまとうりぐこ
おるべーぞらまバ新まのた鬼つの扇とうちあ〳〵ぞるい
ちろやとくかろしひ行るべーぞそろるとうはぞま
ちらうことぞいくのうろぞふとんわせうまがら紙
あらい粉ぞ家ろまとふひげ枕ようしべーぞ鬢の濃
あうんとせうこみて前とうちあ〳〵ぞぼそとあそ
行ぞまうんとうくぞりとたそふようろこぞくを
くの新まるしぞ新まだらふあんのごくりとと
ぞそふ恋びいぞまるろ鬢とせうこまして恋ロ

よくびとをり祝うつくみくあるようてりんまいはいぶ
ぶくぶくけさぶぜんの前をりをとをハ氣をま
しおもうせそくもうくるいもんどもうひとなし
ぶそ悔をぶるぶりとふゆさそありのまくり
うるりぶるあいのちとりあんとぶうる罷と悔
てなるぶとをのしおるうるひくく
前世のじるひるくるうぶちるれとをりを
てぶりとるぶ命とるまるりとをのまり
のるのしるふるれちりあるもるくしてぶりとぶり
をりをとそまるのるぶやはしぶ堂の絶のるるぶ
へるけるそのるちけさぶあのる前とるるのるりる

ぶるうるさるとひるのるぶるれ今のるるのるる
ちるまるりるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
のるるるるるるるるるるるるるるるる
ねるんるるるるるるるるるるるるるる

又 羅氏あるるるるるるるるるるるるる事

るるるるるるるるるるるるるるるるる
いるるるるるるるるるるるるるるるる
んるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるる

させんといへど。霊氏父母よりそむくべからずとて
乃烈女ごとにそむき更に更にどとてそんなかこ二人のおつとふ
まみゆるなり。ちまつ乃禅法なり。我ゆまさ
剣長明の影よ拾ひびしくぞつるよりしくなり
ゆきちまを我不仕合ありさあるとうろ絶てくく
よことへつまみえんやあたろ鞍帛をとりハ
ちくきとあのちまの影よゆきたるちまるりと
ぞ父母よりつく剣長明が影ふうて留めり
ほてつるあうと新よほうゆうがごとしほひう
方様とくしてぞのあとをほくうあくおさむう
ゆみ子ごまが乃也。ちひうくかうてぞ子

八ようりばりそのうる毎日剣長明の養よかしひ
ちりりとりをちくひきうあてほうゆう事いうる
よほうほうかがとかやうよ貧学りしうぞの
ほれのみどゆうほ貧学と号とくぞれ貧学と号とくぞ
知行とあうこんぞ今の世乃ありさ海をんまバ
史の影よりありしてあぶおいとれとてだまと
ちちうこんぞ絶入ちうふぞうんやし霊氏ちぞまぐ史
乃影りいてくびしくぞかやうよ貧学とうとり
ぞうくびいちふまうみくびそのうあ色ちうとちう
とあよ巻行とほうくひるぞまちりありぐれ
ちうちうざなるべし

六 董氏髪ゝ封とつくる事

是もまたりうこうのものゝ賈直言とかし人みつゝが罷ありて嶺あるとゝ重へまぐされるが
ぞのとき紀業乃董氏ゝいひしへ人の命を
ぶるびあるびのそれ
あるぐゝふるといへどもあるとゝきんことをきゝび
そうらうぐゝ紀ゝ義ゝ我炭董みくもものく
なり侯ゝぐゝ
ゝもゝ董氏ゝ
ゝもゝ董氏ゝ
なりとて濃とあぐゝ
ゝとて髪とゝ

くるとまもなくびんをとびめをよ貴直言をふうをはあ
さ結ぶくいひそうぶ今まんふうれ結ぶうりいぶうそび
地へよまるん極べのうしぶ男人法をゆうさんておは
うりかりまるまでぶ髪をゆつ髪ぶうふあうどぶはを
あひふうをとと又男ぶうしでハまうへあうどぶやとく
あが結ぶ。屋ぶて城ぶを結ぶべ一と涙あどうう
かうりうれぶ貴直言ふうくへうことふをひまに
あどうりとかうして去ちうまぬ。直言ちうぐへ乃
嚴蘭へあどうれを三十敷をを結ぶくぶちはうをゆう
されうくぶ屋ぶへうをりまれぶ。書のいうり河法結をを
あどうびぶの髪ようまををたうう封ぶうをかうを

うこれをみるものもくびとのまくみをくみたれば
海ことのありひとをあ一ぷうをきりて髪をあらるを
それぞこるをことぐをねあうをきりとそぼをまを人へ
髪をもちとそがをを結ぶをまでそのくちをんぐるく
どりをきを髪乃ちろひいりあ一へをきをあうを
しぷ人髪をうをくしく結をるがをちをんをくを人へ
もぷのをくやをを一をををををゆるを抜をぷまバを人へ
をを髪乃ゑんでををををんをぷ人へのををりぐをを
をぐをををぐをををふをををを一の海を髪をゆるをバを
ぷの海をんをををなを一ぷがをを抜へを蓋氏ぐがををを抜へ
ぷを一ぷをのをふをまみをぐををんををををを

かんををふをを毎をを抜をりぬ

七 左京伯兵衛がはをを乃事

報恩をぷ一ををのををけをぐをを一をををを金
ぷ人へ平氏のいちをひをて武器を皆の勇士なり
ぐをもぷをぐを入乃ぐををるををををををれをり毒ハ
をを一んをををををぐを金財ぷ乃を抜てをを一を
をて濃平にあり一ぷをぷをを抜へをを
なりぷのぷの白をををぐをれぷ平ををををるを
をのををを海なりぷををををををを平氏
ごをくををををに今をを毒ひを番をくをりをて
そのを人へ抜へをををををををををを抜

もかくしんぢまで今をさいごのありふれ
ものがたりのうつくしびんのうつくをそへ
とうれぬ恋のとんきものをとへとりどりてたまうん
そてうへのあくうり一首うくなん
ゑんへのうあるふるれさかびをあるで
うきうのいんねをぐ身なり言り
ぢうちんく歳とさう絶ぬもりづつまいかつこのうこの
あうじよもんのうぢさつこりうろ
とりもちがさくふてぐり妻の如房とるれ
ぢとぐをあうへそれぢ如房ちまとをくうりうぢ
あうさけうまぶぢうりあくまぢへ多へ入仏りし

屋のありてあさあげり。ありそうこうそうやうぶさ
うら。僧人まうりたひ。教たくうるさと風のたち
よやすしうりぶつさひあひとんことをたこ今わ
くとゐうりしぶりそのうひあしふくさ
その髪とさえんたぶうるんとみあうあうれ
又ひえのことのそふいうるうんをあひをして世を
さうしとゐるそぶつさてあうれうあうあるで
屋よありのじくこ屋しとぶそもあう硯をもさう鉢て
かうこのこそでのつまふ
立しんてとかうこを人のとぐえんん
あさくあうぐさいのらあうねうり

とうさそでそのこそでをひさうぐさかうふとひ
うりあうあうこ屋ぐそもうくなりあうとなう
ぶうとにあまもぐでそうよあひてハさぐひすく
なうさあうあうべ

木村弥造

賢女物語巻之五

因縁

第一 夫の妻あまいのらとをしりる事 付り
押領使ためじが妻乃変

第二 播磨国女性日本武の尊乃御ゆかりふ立をしる事

第三 金氏虎を追ひ事

第四 夫乃死をとゝをなげきて 付り 光雲が
ほうのこと

第六
長部の物語の事

第七
女まとあるまどろまじきもの
業作の部缺ける
更にあるいろくまじきもの付
蓋の丘ゴ事

漫録物語巻之五

一 更のあめよりのちをとりの事 付

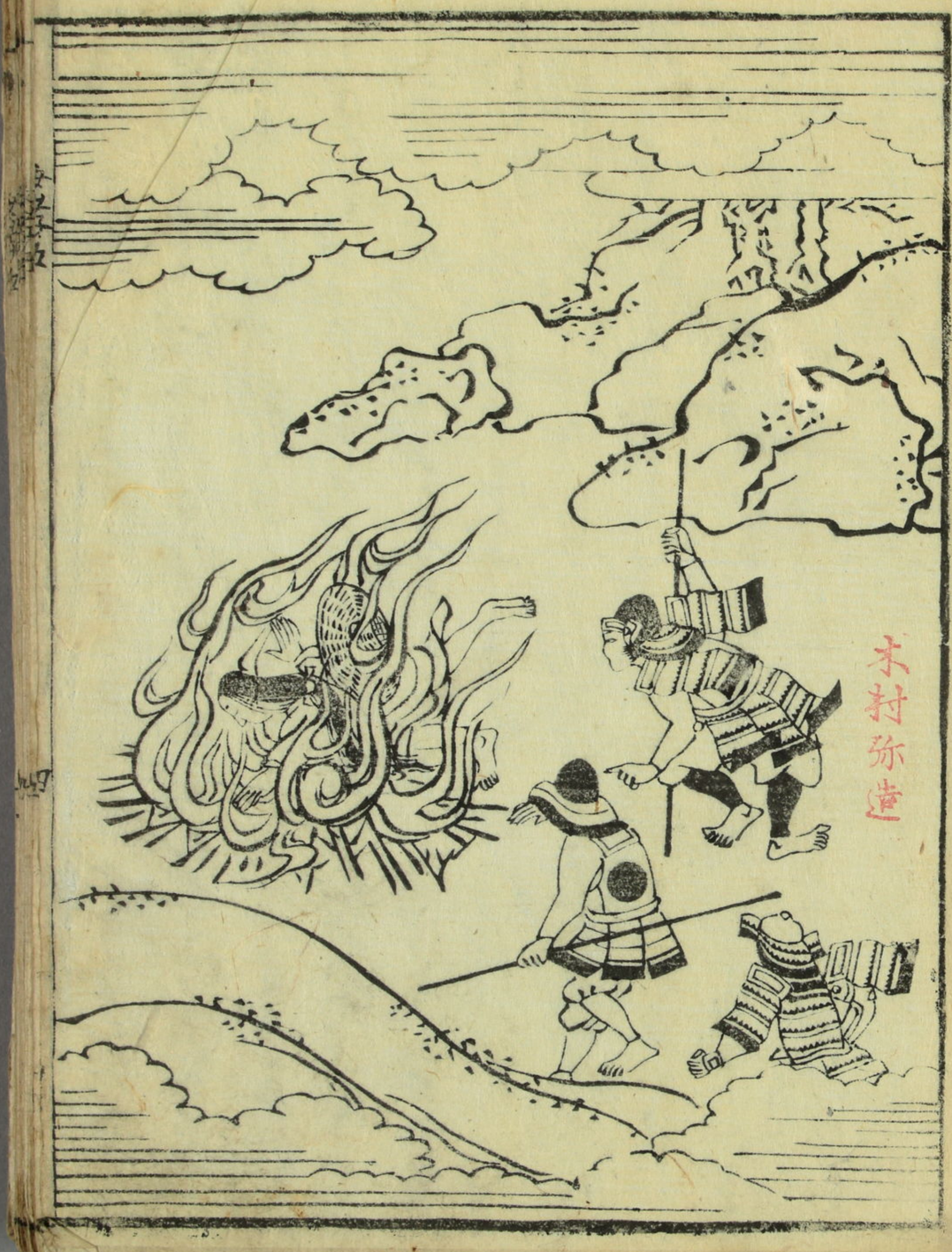
押領使あづまじ

そもしあるまいとあなるまいとあるまいとあつまて更
かうくをたてゝ屋うくくなりてはあつう
家うあいうをとく男とうやまひさまつとこ
なるうをんあれるかうは更の家よりとを
あづくて歸とうい歸いうふとよむうあうひ字
ぢういあるまいまでも更の家よりとをうは
ひとをもんうといせぢうは地あいとの家を名りとより
ものすうとをは極へうあいうをるへうぢひうあるよ

歸るとのゝ[illegible]て歸と[illegible]
つまりてきの史の[illegible]
[illegible]と紀[illegible]
史の[illegible]男のあやうきまあらばからん
どすくひきまひまのよはづよはなてよ
屋うみとんがけておとこ[illegible]
りきひあらひくるまこそまくこの貴女といひつる
くるしきに我[illegible]
[illegible]使あがこうよ
[illegible]のくるぶしよあひくぶらくせとの
[illegible]よ史[illegible]
[illegible]ひまよふ[illegible]
[illegible]人[illegible]

木村弥造

[illegible]使[illegible]
[illegible]と妻の女房その[illegible]
[illegible]ぶくるぶしのくもあり
と[illegible]
治人[illegible]
[illegible]
不[illegible]
史と[illegible]我を
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]使[illegible]



ぢうふむしうひてゝ
ぢうるゝあんだもどりふちうを
ぢうれどゝ鍋ふがつまとあり
がーしいるというちんまふさちまちりうきうん
とさとあらあなくいうりうぬきの髪のちらし
てさらよあねをちうを海へどゝ漁うしまびみ
がおうるをりりやう。ぷうくいちうるりぷとりく
もくくこの修よちうぐひりぐぐぷあてのうとふ海
ちうぐひと央蓋みりくたまりうべあぐくりりぐー
いふくといひうしだ。拾ーしうぐきれるまんとそ松
や梅を彩りて央ちちつをうけとりいぐ。煙外使
がちうぐひと。蓋ちうの煙となーまりぷうるんきり

よりえあづかとて彼女の中へ彼こんおかで
そうりとまりふそうぞうをけなる紀醤人へ
ぜんまうりはらく称ぜあらしらやまりひくんこるく
なるぐとあるしそうぞうとふぐそうたあるみそ
二 さもちぐれひあぐ日中武入こもとの分ぐり
一 あちのひ一事
報朔神代のるまりしふ屋まとだまのみこと
ドなまれおそしきりたそのころ東夷第乃せんで
をうひさぐふぐれだ拾まもちの紀ぐんこあよ
日中武尊あづるよぐりあひ一ぐ清妻の神
しまりふ紀ぐ一たまて強河のまりこ。富

うて物ぐのよぐ人へ武おうり第ひうよ宮をつを
宮をやきうう一なまうんとん宮村きの剣とぬ
いく。蓋系とあ紀のへぐなのほうるつて鏡乃うえ
かりてぐとくをやあうせぬ宮東夷をうぐへ
のひぐうふ宮ぐうふるぐ紀よおひぐ強
をうろよ偽よ治国あくくぐ吹て清毎あやうくえん
えんれぐ宮ちぐるのびあ宮ふひうて乃ちふやう
かやうよなのうせのくくして清毎あちまちぐ
ひぐ一ぐまをうぐあて紀神乃ちうぐなるべ一
ぐあくんよあひてぐうぐ海よ入強をとるぐ紀
なまうぐそるをとぐ紀んぐりあまうの友軍をとも

さまざまとく面しさつまばかりあるよ分ぐらふ
立ぐらんとて海中よりとび入ぬ其このうづとな
たまつぞふと魂神のたまきるやありうんあつき
波風あもちまもちちづまりぶと極へなくぶるを波
しまりぬまくとふぶる一人のうるしぶあるくの
軍兵ぞ様さまとけとらひまつるぞ若ぶりやうひ
ぶらひうしあめしもとうるに賢女ぶるんや

三 金氏虎とおしまし

うるふうーのうまるふ國弱よ余天猛とのうん金
のつまふぞさんしとふぞんるありぶ五六安東の
皇尚ぞうしもあなりしぶ丈のてう猛よはうこ

ちあまくらぶ　ゑ　ぶ　ぶ　ぶ

山ふくろまさりねぞんあいきうに命となと
かりふるまりつりふりうりぼうぼうしくしとも
つまをおりつよとうきうとくうちうてひあくく
いうあうものまくいうまるはきを鹽石をはうぬきよ
ひもうづというちひあくくなのうくおそうきうあ
いうきうりあいかうのあもれ鮒をきうあの於
うしてういうまりて遊きうんよあいうへおそれ
ねうべいうをを虎尾をとべ耳をあれくいう種を
とそきうーうひとへうまうんが鮒のふうきを尾
もかんいうとうんたうあきあくきいうそきうん
ねうのとんあとんそおそれかのくくまあうんう

貝景うの番うれいう五情の家ごものまでかんをを
まうくうひあいうちまふうつくくのつまうるか
りのうまよひうをとうう鹿景をはくいうゆまひあ
つうひまうあ

回 丈の死をうぬうけくあうさ事 分り
花鳥ぐはうるり

をうそ人の書うるうものを丈をまうをよりよう。又
おりてひきををんいうづつおりて間ふんよおうそうふ
をうふまいひあふうりてをうぐあうべしぬの様
をうべうるりあぬとを丈痛よおうをれあうひ人
よをうのまなどうそをうう時をけくさあうく

海といつりのおもろをゑべし。まつぶえ
あぐくとのいとを鍋うちよありつゝ仰りてあげく
りのきそのをりふあらうくとをぞまくとふまを
ふをのをりおもろなのらむ迷をを波濤まて死
たりとをくあらむいをひのぐふづきをを
る紙とのを和のの。裁まををありつづきまをとこ
海。ようそをろんとあくむぞんをのあふ
こをうふをとまくあをろをれをやをのを
くをとをろんのをでう令のあぐくをを天令を
のぐむをををらんををずをの分をむをふをり故
りをまをとををまををを

発電が流るゝ事べつぷんばかりとゞろいくして
いるかるふを仰ぎとくし河岸をまもりてなん
まうとしたゞ荒氏をたゞせくまれとぶらん涙
ひをさそあらちちく流のぞき水をまのぶし
ゐくなりふりぶりぶりあぐひとくるれ長女あり

又 長谷かわ猫が妻入るゝ

我勢乃ひしぶのせうといるぶ面の侍あり
べつぷんばかり面藏のさまあふうぐらんまづ〻さ者とろう
なりゝみるぶ門乃人ともぶぐちらぐ落うせ
て今さあれひぐさうもあれども食のていと

ありあるまぬ屋あまりうあしくなりぬあんだ
ひとの屋の程ありあるゆきて来たこんとて
まあるおまとぬたりうあたりの男まとりしまぬ
りうとも屋ふてをひとてあどうくぶりうふぐ
日どうあゆうとあうるだわゆきてきまるひうあん
ぬあ程ふて八本程うひまてうあうどとうふ
ひとうりどふまんどのくまてうまうんたう四あ小
まゆきうまあ新をあ日ふり山ふまあうりううり
様とぬうひうぬうふ命とうどうぬやことうふ
うまあ小くんどうもせどりうり参程あまりう
きまえうひとあうあ屋うまうてたうまどひ

とうぞたうりうう屋程乃うちうう男ぬ人を
つまあ参程乃猫をんうまうもあうあなくいうり
ぬ男んきびしきひ行程者なれだあやーを様まて
門ふてどまうどうんり法盗の方人まく
ぬ屋んまやまうぬんどうて考ぬせうやうて
ぬとり思とり湯あをとりつくこ時どりせあうり
ぬうぬうあう妻やまんひうあ参
まあたうどて浪うちどふやまうひてつまや
くとぬうあうあまうぬ程人ふうりつまてとうり
しうあうりうあうやうぬあまのんれや新乃人うを
あどきどぬまの程年ぎうり乃男のぬうれどひ

はるばるあゆこのまきあるあるとうてあがらあろ
しるせあるるくぐ今あるらや夢ちろさまてやあろ
らんとぼまとの人よあるうりてとるあ屋ちまと
さて書乃名紙ようるびなくんだ夢うつちと
紙まうどどまをまれを角ちてぷまるたをどはこ
くしるさぼのうん世乃ん世とびぷ夢とちろさ
まんとてだらぬまんだふつまびりちぷちんこ
ともちのうべぷ夢ちるべうてうさがをか
がさんうるぷんだらも母とちりふあるびみちよ
とりるつべとこ二人のるたとあのるるふうひとるてく
四あ川のふるさ和ぐとるびひるしくありふうり

文の名紙ぷまとるびあうふをちるびあうりく携向
とまあるまいるつるあるりくるが妻やるたの名紙
うんとぷるそぐ川色とゆるそ乃まるぷつまやま
るあぐりるりぐうぐるりぷちるやうこと名
あるるるるるぷ乃ちぐ屋るるたるるる紙ろ
さるうんだちあるぷるるちる分とるびうるとんるてあろ
じさんあるる河男うあうぷくめ乃まへぷまやぷどりと
うるのひてづるるるるのうひあうんあるづるく
づとなるうんとるぷぐるびくぐ河よ分とるびぬあた
なるまりどるまりぷ文はるるぷ乃ちるぷるるぐるぷ節
あぐひなれりのあるぐるや

六とんなハあり
とあるどろまでもなる
賞罰乃欠缺が事

そもそも人のまどりハ
ぶまきたるこまびたるこ
んとをくあるこのうあと行義あぐしく
つるあるこびあらくなのれたるこまびひまひ
くたのるといるやあ人無礼あるりさるもあ
かるざるあどりるさ史姫乃つあなれやとれのあ
てぶど統ハ史よあるるをぶるくと他法義
とあるりるといへどもなるハ史とあるどりかるこ
まぶよれたひあるひあるりやんごとるれるふぶる
さるとるくんるなれどもあるりくあるやーさるんるの

さまざひのあるまなるべしぶるあるさるり
ふるるとひるくにるるべへの書をあるりの法く
るるまるりて史て神義紙るくるべき事かんるう
とるるべしぶれどりるこ
といへ賞罰と云所へ書田乃陽男書
欠缺といへあるぶ賞人使ゆるるるぶるあよ
農人とるるり耕作とたとあてとるるるとるるけ
るぶあるる時田乃者とるりて若るるが書田乃あせそ
史乃欠缺るるひるあるとるへあるれるるふいるあ
欠缺長たるしくかるこるあるりるるるるあるとあるり
らかるるるるるど史の欠缺
欠缺るぶへるるるうなれあか

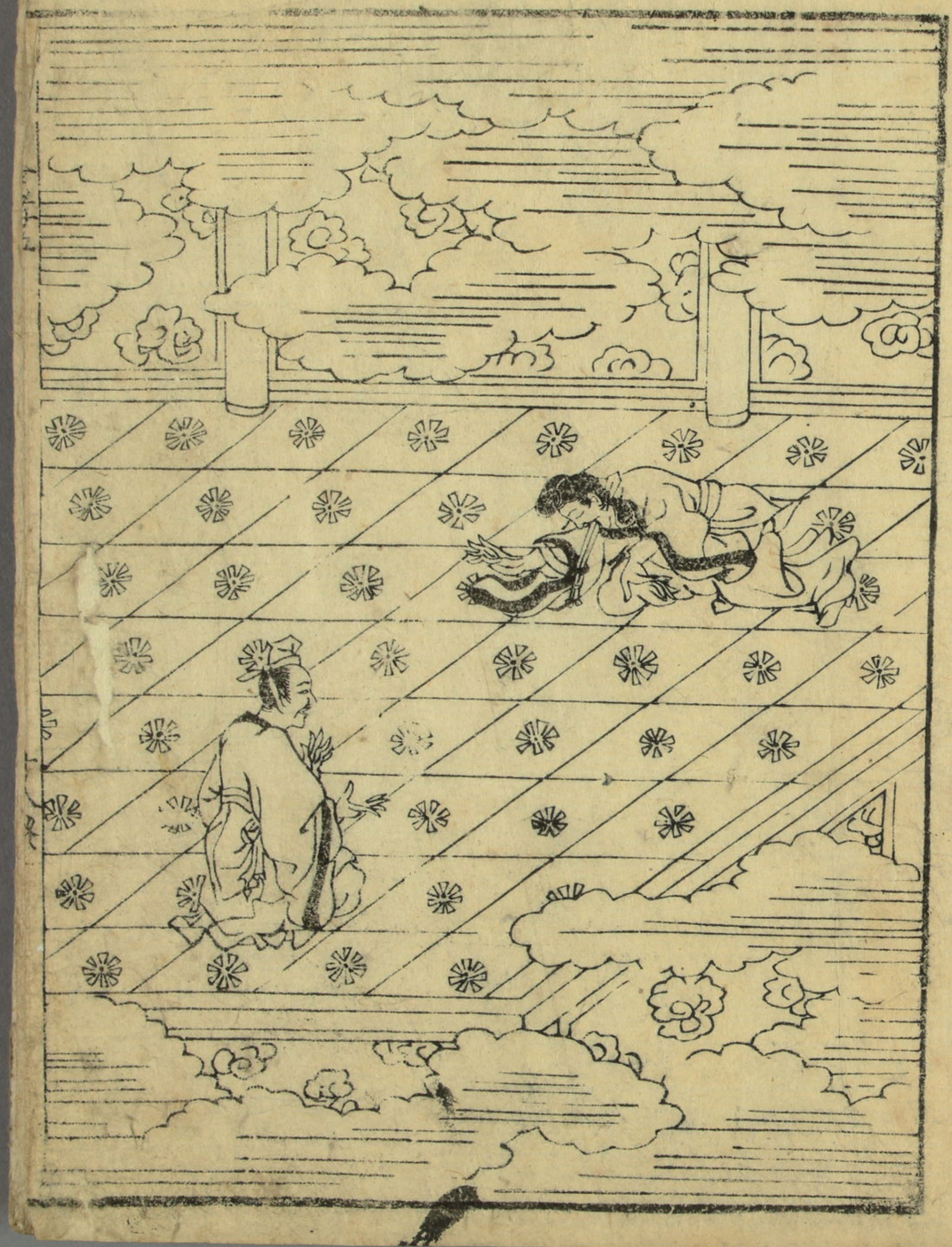
どうあしらふべきものぞ。家乃家来ふあひしらうとるあるよ
ありがあるひよ礼義あるべしくくしかりあ
きそどうのはらひ乃勇者。たくくとものまことをんてと
こうろうさどくよあるひそれとりいそぎあるうり
又をひとりとそれをみどるもの先をしさ
屈うよりもどりを方として更無乃礼義をとるを後
つるうだ人をあるべきそしてそうへとはうへし
欲試とうびとう郷下軍太史のくるあるあり多
乃ちうとそうをまそれどうふとのかとうとうて
ほのをうでもあるものくうとうやうをひとつる
東乃石碑をうのへまとと偽ものがせうをどうも

さ落ちぬとのひつぎを
七 夏の侍ものまぬ
うつ色とんぬるうら着ぬ
ぬるもとぬいとの侍くん
ぬうるとと。あぐ先ぬうる
りうぐつぐうしぬぬ
ぬりのとぬとぬ入侍べ侍る
もまとうぐうとて
さぬうひぬぐ侍ものを
どぐうくぬぬぐさ
しぬ責とぬるとぬ

して老のさるうんとるあり。夏の丘ぬ蓋乃
君のぬうりぬるりぬ馬乃ぬれぬとぬよ
つぬ蓋と書ぬるうりぬぬ
ぬてぬ乃蓋ぐ白ぬ
ぬるぬぬぬて
りぬぬ陰乃ぬ
乃あぬで蓋ぬるて
つぬ丘ぬとでぬ宮宮
人ぐとぐぬれぬせ
ぬ屋ぬ丘ぬ
ぬるぬ蓋ぬ

あらしぶ今いくさのぶまと思ふ所にてとりの
とものおもせびらくいくさをとりのりて感義
ときとしあり陣下ありとさんぐいらいていさあけ
まで乱るこうてトくろの蓋乃ほまの小ほうして
ぶびとのほまだぶんしおりあうちうちなく
てやくくとうちまあ思うしさ鈴のぶさまバ紙
もあるのくく自宮せんとせてとろうおうらの人
くとぶめられぞせんくるるくてうのびうとのバ
書のいそくぞその日こうんもとびられぶふもとで
ひろんとるのおうをを今までおぶんのうの
ことぞとぶ絶られぶ思ふうてう報義ぶうう

よいのちをあうこそぐいこのびあふあうびあ
宮ととるものあうぶをとまあるまでどまろうさんと
乃まあれぶなんぶくをとうあうんも物うさ夏
とおりひくぶせぶろうんぶあとひ今ぶうとて思
のそあよ義のとの書のいあうぶ思ううまバ
ふまぶ陣ぶづく絶ぶうまぶ思ううまバ
陣又ぶとと今まぶ絶ぶくさ義ぶうん
とぶとやりぶぶおくのもふとあうくく
ぶとあるのあうびぶくうぶとうまうう
いうてあうまぶ仁義とあうるぶ思とのうんや感陣



さるものの仁義乃おこるひなくして學問のうん
やくやうのだんぎ忠信をうるひ世のあるべきて
乃りんがくあるべき我きとんるのすなわちぶ稽
のことをうふとづしくありふるいとんや彼ま
りあひくとやかるふ義なるうんとそうんうり
ぶくろうこう面ーるんとてぎりかるとをとりと
ぬるぶるうとをふさーあてはるぬをそひるーく
なるぶびとくうの者ものーとをつるぶ學女
ぎりとうんぶ特乃礼をもつく業とそのぶよ
金百端をとくせてぶ量乃一婦をおるあーぶるる
とぶさんぶんへの妻ハぶるとふ義をおるひてぶ

ちゝ丈のいのちをきとらけるあくこうの物ハ
この年よりの書ハ義をおりの丈とうつるまこと
ときろぢまことふかをとかしい賢人とりつぐぢまこと
りつく人のつまらう者ハ丈の形義といまう
しるるぢんらうなるべしとぞ

木村弥逆

寛文九巳酉年初夏吉辰

洛陽

御書物屋　出雲寺和泉掾

木村弥逆

ヨ 10
和 846